

首都圏の暮らしを 支える、荒川の水



コラム 近代改修を見に行こう



横堤が張り出しているのが分かる(平成19年9月台風9号)
橋かと思いつつ御成橋。日本二の橋と長い橋を道路が走っています。

柱が立つ御成橋。日本二の橋と長い橋を道路が走っています。



県道27号に架かる御成橋を渡ると、右岸側の道路が「横堤」の上を走っていることに気づく。

日本土木遺産「横堤」と広い河川敷

完成20年を迎えた平地のダム 「彩湖」が守る首都圏の水

外環道で荒川を渡ると眼下に広がる荒川貯水池「彩湖」。渴水時には貯めた水を飲み水として補給し、洪水時には川の水を取り込んで下流の水害を防ぐ「平地のダム」。完成して20年になるんだって。



彩湖周辺は貴重な水辺空間として人気。実は、治水や利水の役割を果たし、暮らしを守っているんだね。

はたらきは「彩湖自然学習センター」で学べるよ(無料)。



「彩湖」記念カード!

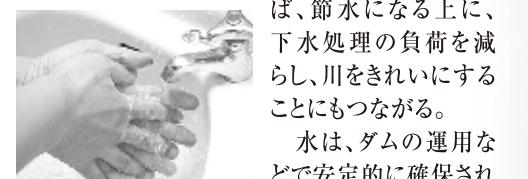
彩湖完成20周年のアニバーサリーカード(限定)を、彩湖自然学習センターと西浦和出張所で配布しています。詳しくはウェブで。

生活にどれだけ水を使ってる? 節水のチャンスがあります!

1人が1日に使う水の量は約290リットル(国土交通省「日本の水資源の現況」)。そのうち炊事、洗濯、トイレ、風呂で約9割を占めている。考えてみれば、そこには節水の大きなチャンスがあるってことだ。

例えば、食器洗いは油分をふき取ってから洗えば、節水になる上に、下水処理の負荷を減らし、川をきれいにすることにもつながる。

水は、ダムの運用などで安定的に確保された限りある「資源」。常に節水を心がけよう。



荒川の水を利用するみんなの1日50リットルの節水は、彩湖の水深70cm分になるんだって

荒川4ダムの貯水状況

荒川にある二瀬ダム、滝沢ダム、浦山ダム、荒川貯水池(彩湖)の貯水状況は右のQRコードからご覧いただけます。



荒川上流の二瀬ダム(7月21日撮影)。
今夏、貯水量が平年に比べて1ヶ月以上も早い
ペースで少なくなった。

考えてみよう、水はどこから来るんだろう

荒川の上流、秩父生まれのたい平です!

蛇口のレバーひとつで簡単に出てくる水、ありがたいですねえ。荒川の水はお隣を流れる利根川の水と力を合わせて、埼玉県と東京都の約1680万人の暮らしを支えているんだって。

思えば、川の流量は季節や天気によって大きく変わるし、川の環境を守るためにも水が必要だね。暮らしの水を安定して確保するために荒川・利根川の上流にはたくさんのダムがあって、連携しながら上手に運用されている。限りある水資源を大切に使うために、ふだんから節水を心がけよう。

川の水はいつでも
あるわけじゃない。
ダムで安定的に確保された
「資源」なんだよ!

林家たい平

